



レイテ島のパロ町でビスケットなど救援物資を配る。
2013年11月27日＝アジア協会アジア友の会提供



高潮により破壊されたレイテ島タクロバン市、
2013年12月1日＝アジア協会アジア友の会提供

2013年11月8日にフィリピン中部を襲った台風30号は、アジアの隣国に大きな被害を出しました。本団は「フィリピン台風被災者救援金」募集社告を11月13日付の毎日新聞朝刊に掲載し、2014年3月までに933件1,104万円が寄せられました。

第1次分として、12月18日に以下の5団体に計700万円、3月には第2次分として国連UNHCR協会(東京都港区)に200万円を贈呈。このほか、公募助成制度からアジア日本相互交流センター・ICAN(名古屋市中区)へ30万円を助成しました。

5団体と贈呈額は国連UNHCR協会200万円、日本ユニセフ協会(東京都港区)100万円、アジア協会アジア友の会(大阪市西区)200万円、日本国際飢餓対策機構(大阪府八尾市)100万円、

AMDA(岡山市北区)100万円です。

贈呈先のうち、アジア協会アジア友の会は過去に同国のパナイ島で水道パイプラインを設けた実績がありました。今回はサマル島、レイテ島を含め、約2,600世帯に生活物資や水、食料、ソーラー懐中電灯などを提供。贈呈の際、村上公彦専務理事・事務局長は「現地の駐在員と連携し、継続して支援活動をしたい」と話していました。

日本国際飢餓対策機構は、セブ島、レイテ島、サマル島などで活動。発生間もなく、日本から空輸したパンの缶詰(約1万食)やバケツ、浄水フィルターなどを配りました。パンはやわらかく、水が飲めるようになって感謝されたそうです。

世界子ども 救援金

フィリピン・台風30号被災者救援 6団体に930万円を贈呈

— 3月まで —

世界子ども救援金贈呈先一覧

2013年度の「世界子ども救援金」は「取材地助成」「公募助成」「継続支援助成」「フィリピン台風被災者救援金」(上記記事参照)の4つの助成を行いました。

●「世界子ども救援金取材地助成」

2団体、総額100万円を贈呈

1. 国連UNHCR協会(国連難民高等弁務官事務所マリ難民支援)
2. 日本ユニセフ協会(マリ難民支援)

●「世界子ども救援金公募助成」

5団体、総額150万円を贈呈

1. アジア日本相互交流センター・ICAN(フィリピン台風被災者支援)

2. マナムニ母子寮関西連絡所(バングラデシュ・チッタゴンにあるマナムニ母子寮での子ども支援)
3. シエラレオネフレンズ(シエラレオネでの子どもたちの支援活動)
4. 日本国際ボランティアセンター(アフリカ・スーダン、南コルドファン州での大規模紛争による避難民・難民に対する支援プロジェクト)
5. ネパール・ヨードを支える会(ネ

パールでのヨード欠乏症に悩む母子たちへの支援)

●「世界子ども救援金継続支援助成」

1団体、30万円を贈呈

1. JFSA・日本ファイバーリサイクル連帯協議会(パキスタンカラチのアルカーイルアカデミーを運営する地元福祉協会を支援するNPO法人)

東日本大震災被災者救援金

2013年度は3月末までに188件706万円が寄せられました。9月6日に第10次分300万円、3月13日に第11次分200万円を日本赤十字社に寄託しました。新年度も継続します。

贈呈日	金額	贈呈先
■2011年度		
第1次、2011年3月24日	5,000万円	日本赤十字社
第2次、4月18日	4,627万円	岩手・宮城・福島県各1,000万円、日本赤十字社1,627万円
第3次、5月10日	2億円	日本赤十字社
第4次、7月10日	1億円	日本赤十字社
第5次、9月28日	2,800万円	日本赤十字社
第6次、2012年3月23日	1,200万円	日本赤十字社
■2012年度		
第7次、7月18日	700万円	日本赤十字社
第8次、9月21日	100万円	日本赤十字社
第9次、2013年3月22日	600万円	日本赤十字社
■2013年度		
第10次、9月6日	300万円	日本赤十字社
第11次、2014年3月13日	200万円	日本赤十字社
寄託総額	4億5,527万2,718円	

毎日希望奨学金制度

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん



東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度を毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設。2013年度分は3月末までに1,604件3,742万円(東京・西部分も含めると1億2,779万6,002円)が寄せられました。2011年度からの合計は東京・西部分を含め11,266件・6億3,698万1,888円になりました。

「毎日希望奨学生を募集」の社告を2013年3月13日付毎日新聞朝刊で掲載するとともに被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して130人が応募。5月1日、全員に支給が決定しました。奨学生数は2012年度からの継続者と合わせて241人。休学者があり、最終的に奨学生数は240人になり、2013年度は5,766万円を支給しました。

■2011年度

- ・156人(12カ月分)3,744万円を支給。

■2012年度

- ・継続者110人、新規81人、途中、休学や退学があり最終数188人(12カ月分)4,554万円を支給。

■2013年度

- ・4月25日、継続者146人(4、5、6月分)876万円を支給。
- ・6月25日、新規95人(4、5、6月分)570万円を支給。
- ・7月25日、240人(7、8、9月分)1,440万円を支給。1人休学。
- ・10月25日、240人(10、11、12月分)1,440万円を支給。
- ・2014年1月24日、240人(1、2、3月分)1,440万円を支給。

小計 5,766万円

2011年4月からの合計支給額

1億4,064万円

2013年度毎日希望奨学金 学校種別一覧

2013年度奨学生241人(最終数は240人)の内訳

- ・高校生145人
1年生38人、2年生45人、3年生60人、4年生2人
- ・短大生2人
1年生1人、2年生1人
- ・大学生57人(最終数は56人)
1年生27人、2年生17人、3年生8人、4年生5人(1人休学)
- ・専修学校生37人
1年生22人、2年生10人、3年生4人、4年生1人

2013年度毎日希望奨学金 市町村別高校生一覧表

- ・岩手県18校62人
大船渡市3校、20人、釜石市2校、12人、住田町1校、4人、宮古市4校、13人、滝沢市1校、1人、山田町1校、6人、花巻市1校、1人、盛岡市5校、5人
- ・宮城県31校70人
石巻市9校、19人、気仙沼市6校、16人、東松島市2校、2人、登米市1校、3人、南三陸町1校、2人、柴田町1校、2人、仙台市若林区3校、6人、太白区1校、2人、宮城野区2校、8人、多賀城市1校、1人、栗原市1校、1人、岩沼市1校、2人、利府町1校、3人、涌谷町1校、3人
- ・福島県5校6人
南相馬市2校、2人、相馬市2校、3人、郡山市1校、1人
- ・3県以外7校7人
茨城県筑西市1校、1人、栃木県小山市1校、1人、千葉県市川市1校、1人、

神奈川県相模原市1校、1人、和歌山市1校、1人、鳥取市1校、1人、鹿児島県屋久島町1校、1人

毎日社会福祉顕彰 3団体に贈呈

「第43回毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が2013年10月9日、毎日新聞東京本社で開かれ、次の3団体に賞金各100万円と賞牌が贈られました=写真左から順に。

- ・奈良市で自宅で暮らす難病児とその家族たちに家族と一緒に楽しい時間を過ごしてもらう「親子レスパイト」を提唱する「一般社団法人奈良親子レスパイトハウス」。
- ・自身も施設出身者で、大分県別府市で長年子どもと寝食を共にしながら児童福祉事業に従事する濱田多衛子(別府光の園理事長)さん。
- ・神奈川県伊勢原市で「司法面接」の研修を行い、弁護士や児童福祉司らが電話相談に応じ、司法と連携しながら子どもたちを守る「認定NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク」。



「小児がん征圧募金」 6団体に贈呈

毎日新聞の「生きる」キャンペーンに寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2014年3月12日、大阪市北区の本団で開かれました。

社会事業団に寄せられた募金は毎年、患者支援や研究に取り組む団体に配分しています。今回、大阪社会事業団からは総額280万円が京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市左京区)▽京都ファミリーハウス(京都市中京区)▽日本クリニックラウン協会(大阪市港区)▽近畿小児がん研究会(吹田市)▽チャイルド・ケモ・ハウス(神戸市中央区)▽あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市東区)の6団体に贈られました。

●「施設児童就職予定者研修会」開催、「就職祝い金」を91人に贈呈

2014年春、府内の児童養護施設を巣立ち就職する中高生を対象にした「施設児童就職予定者研修会」が2月8日、大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪で開かれました。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、府社会福祉協議会児童施設部会、毎日新聞大阪社会事業団主催、同ホテルが協力しました。

アフターケア事業部が昨年7月から13回にわたり弁護士や企業の協力で身近な法律、食生活などに関する「自立生活技術講習会」を企画。最終回として研修会を開きました＝写真。施設出身の先輩からの体験談を聞いた後、テーブルマナーや府警察音楽隊の生演奏も楽しみました。会場には仙台七夕祭りで使われた、大きな吹き流し6つが東日本大震災の被災地でもある仙台市の地元企業の協力で飾られ、生徒は今後の抱負や夢を短冊に書き綴りました。

本団からは、読者らの寄付金を基に府内の卒業予定者91人全員に1人1万円の「就職祝い金」が手渡され、各団体からも「祝い品」が贈られました。



●「歳末たすけあい運動」報告

2013年度の「歳末たすけあい運動」を11月7日～12月25日に実施しました。「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」は11月30日～12月2日、毎日新聞ビル地下のオーバルホールで開催し、1,986万円の売り上げがありました＝写真。歳末義援金935万円を加えると総額2,921万円となりました。

また、2014年2月11日に、本社ビル横の毎日インテシオ4階会議室で6年ぶりに「チャリティー名士寄贈書画工芸作品即売会PART2」を開催。在庫作品など約500点を展示販売しました。開場前から100人を超すファンが詰め掛け、売上は473万円になりました。

売上金や義援金は、児童福祉施設

や団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募福祉助成や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど、今後1年間の社会福祉事業の資金としても活用します。皆様のご協力に深く感謝いたします。



●「公募福祉助成制度」11団体に355万円を贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业をする団体に一般公募で助成する制度です。2011年度から始めた児童福祉施設のアフターケア事業に取り組む団体に助成する「100周年記念事業特別枠」も最終年を迎えました。2013年度は下記の11団体に総額355万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

- ・響きあう命の力ー難病・障害児者と関わる人の会 兵庫支部(兵庫県西宮市)
- ・ベーチェット病友の会 大阪府支部(大阪市)

〈100周年記念特別枠〉

- ・大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部(大阪市)
- ・社会的養護の当事者推進団体なごやかサポートみらい(名古屋市)
- ・就労支援事業サポートいずみ(名古屋市)

〈シンシア基金助成〉

- ・日本介助犬協会(本部・横浜市、訓練センター・愛知県長久手市)

〈世界子ども救援金助成〉

1面下段を参照。

●「ゆうゆうキャンプ」開催

大阪府内の被虐待児や生徒らに対

象にした「ゆうゆうキャンプ」が2013年9月28日、大阪府岬町の府立青少年海洋センターで開かれました。

小・中・高生22人が参加。昼食のバーベキューの後、カヌーに挑戦。港内で基本的な操作を学び港外へ、関西国際空港を目前にパドルを力いっぱい漕ぎました＝写真。

家庭児童相談室などで継続的な支援を受けている子どもたちに、日ごろの生活を忘れ、生き生きと過ごしてもらうのが狙い。8月に貝塚市の府立少年自然の家で宿泊キャンプ、11月に大阪市此花区の舞洲陶芸館周辺でデイキャンプなど年3回の野外活動を行いました。



●「専門点訳・音訳講習会」を開催

「専門点訳・音訳講習会」は「点字毎日」創刊65周年記念事業として1987(昭和62)年、「学術専門書点訳講習会」として始まりました。

当時、近畿地方では、毎年10人前後の視覚障害者が大学に進学。しかし点字の教科書や専門書が少なく、外国語や理数、楽譜などの専門書の点訳ができるボランティアを育てようと、毎日新聞社・点字毎日、本団主催、日本ライトハウス情報文化センターの協力で開講したのが始まりです。

2013年度は「点訳・試験問題(中学用)」「音訳・図表」「音訳・音声解説」「音訳・音声表現技術基礎」「音訳・音声表現技術・会話文の読み方編」など年間5つの講習会を、同センターと本団の共催で開催しました。

これまでに修了者は1,400人を超えました。

🌻 配食サービス車 「三重まごころ」に贈呈

地域で高齢者や障害者に配食サービスを行う団体に車両を贈る「配食サービス車贈呈事業」は、2013年8月29日、三重県津市のNPO法人「三重まごころ」(清水恵美子理事長)の「まごころ食事サービスセンター」に1台を寄贈しました。

贈呈事業は1999年から始まり、今年で27台目です。

三重まごころは1996年発足。2001年から配食サービスを開始。従業員は地元の高齢者などで、毎日200食分を調理。配達時の声かけ運動も行っており、市の委託事業も手がけています。

津市博多町のセンター前で贈呈式が行われ、清水理事長が記念キーを受け取りました＝写真。



🌻 そよかぜ杯 ボウリング大会開催

「第22回そよかぜ杯ボウリング大会」が2013年6月16日、大阪市北区の桜橋ボウルで開かれました。1992年から続

く親睦の催しで、大阪交通遺児を励ます会(青木勝代表)と本団の主催。大阪、奈良、兵庫の交通遺児とその家族約80人が参加しました。長年交通遺児への寄託を続ける大阪府ホンダ会の後藤悦治郎会長らも大会を見守りました＝写真。ゲーム終了後は近くのパーティースペース「パーティパーク」で昼食会と成績発表がありました。



🌻 岡山県内5施設に 囲碁セット贈呈

「第46回歳末たすけあいチャリティー囲碁まつり」(日本棋院、スポーツニッポン新聞社主催、本団後援)の収益金で制作した囲碁セットを岡山県内の5児童養護施設に贈呈しました。

太田正隆・常務理事らが2014年3月7日、岡山市中区の岡山市善隣館を訪れ、三宅嗣朗館長に囲碁セットと共に、子供たちに囲碁ブームを巻き起こした人気漫画「ヒカルの碁」全23巻、洋画家の中野治朗さんの作品「磐梯山と五色

沼」を手渡しました。

三宅館長は「善隣館の子供たちは、日ごろから地域の老人会と交流が盛んです。囲碁を通して、お年寄りとの触れ合いをますます深めたい」と話していました。

このほか新天地育児院、わかば園、津山二葉園、みのり園にも贈呈しました。

🌻 「第45回新春こども大会」開催

第45回新春こども大会(大阪市、大阪市児童福祉施設連盟、本団主催)が2014年2月2日、大阪市天王寺区の天王寺区民センターで開かれました。

市が管轄する10の児童福祉施設から約400人が参加。冬休みに練習したダンスや劇を元気いっぱい披露しました。

また、京セラドキュメントソリューションズや大阪市子ども相談センターの有志などがボランティアで出演しました。

🌻 「第28回大阪市児童福祉施設 駅伝・ロードレース大会」開催

「第28回大阪市児童福祉施設 駅伝・ロードレース大会」(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が2014年1月25日、大阪府吹田市古江台の大阪市立弘済のぞみ・みらい園グラウンドと周辺で開かれ、小中学生約300人が参加しました。

練習を重ね、懸命に走る姿に、仲間たちが熱い声援を送っていました。お昼には温かい豚汁が振る舞われました。

ご寄付の方法

■ 郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、住所、氏名、連絡先などの必要事項をご記入のうえお振り込みください。送料(手数料)無料の払込取扱票(振替用紙)を必要な方は当事業団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)
毎日新聞大阪社会事業団

■ 現金書留でのご送金

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞大阪社会事業団

*「社会福祉に」「希望奨学金」「世界子ども救援金」など寄付項目を通信欄に必ずお書きください。

*金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきまします。匿名や掲載不要を希望される方は通信欄に「匿名」などお書きください。

■ ご持参

直接、本事業団事務所へ。大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階。

平日は10時～18時まで受付(土、日、祝日は休み)。

■ お問い合わせ先

公益財団法人

毎日新聞大阪社会事業団

〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5

電話 06-6346-1180

ファクシミリ 06-6346-8681

E-MAIL: mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

編集後記 47

◆隣国・フィリピンでの台風被災者支援を1面で紹介しました。現地で活動した日本国際飢餓対策機構によると、水をろ過するフィルターやパンの缶詰が役に立ったとのこと。

◆清潔な水の大切さは言うまでもなく、阪神大震災時に「高台に住む高齢の恩師のために」と若い記者が、休日にタンクを下げて出かけていたのを記憶しています。

◆やがて阪神大震災から20年。東日本大震災から4年目。人々の記憶は薄らぎますが、被災者の苦労は続きます。災害への備えとともに、こうした人々の存在を忘れない社会でなければ、と思います。(太)